

## 1) 著作権保護のための表示

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

## 2) 研究会基本情報

「アフリカ食文化研究—変貌しつつあるその実像に迫る—」（令和5年度第2回研究会）

日時：令和5年11月26日（日曜日）10:30～17:00

場所：Zoom によるオンライン開催

（研究発表）

10:30～12:00 彭宇潔（AA 研共同研究員、静岡大学）

「カメルーンの辛い料理：予備的調査の報告」

13:00～14:30 古澤礼太（AA 研共同研究員、中部大学）

「植民地起源都市アクラのトウモロコシ食文化」

14:45～16:15 八塚春名（AA 研共同研究員、津田塾大学）

「植物性のローカルフードを再評価する：タンザニアにおけるムレンダの多様性と地域性」  
（事務連絡）

16:30～17:00 藤本武（AA 研共同研究員代表、富山大学）

『食文化からアフリカをする〇〇章』経過報告、次回研究会予定等）

## 概要

1) 彭 AA 研共同研究員（静岡大学）による「カメルーンの辛い料理」に関する今夏の予備調査報告がなされ、2) 続いて、古澤 AA 研共同研究員（中部大学）によるガーナの首都アクラにおけるガ民族のトウモロコシの発酵食および儀礼の食文化に関する報告が行われ、3) さらに八塚 AA 研共同研究員（津田塾大学）からタンザニアにおける練粥とセットで食べられるムレンダと呼ばれる料理に関する報告が行われた。いずれの発表も活発な議論・意見交換が行われた。4) 最後に藤本 AA 研共同研究員代表より、出版企画の進捗状況に関する説明と意見交換、次回研究会予定についての説明などがなされた。今回はオンライン開催のみで、また長時間に及ぶものとなったが、全体として大変有意義な研究会であった。